日本獣医師会学会関係情報

日本産業動物獣医学会・日本小動物獣医学会・日本獣医公衆衛生学会

日本獣医師会学会からのお知らせ

☆平成23年度 日本獣医師会獣医学術学会年次大会（北海道）盛会に終わる

平成23年度 日本獣医師会獣医学術学会年次大会（北海道）は，平成24年2月3日(金)～5日(日）の3日間，北海道獣医師会の共催により，札幌市・札幌コンベンションセンターにおいて開催され，全国から獣医師や獣医学系大学の学生をはじめ動物看護職等関係者2,000名以上が参加した他，一般市民公開シンポジウムは地元札幌市民を中心に多くの参加者を得て，成功裏に終了した．

学会の各プログラムでは，多くの会場において満員となるなど連日好評を博したが，特にノーベル化学賞を受賞された鈴木　章北海道大学名誉教授による市民公開特別講演「科学者にとって大切なこと」や文部科学省科学研究費の補助をいただき開催した「生産獣医療における国境なき感染症の流行現況と対策に関する国際シンポジウム」並びに市民公開シンポジウム「感染症のグローバル化対策―近隣諸国とどのように協力して対策を練るか」，さらに市民公開シンポジウムとして開催した「東日本大震災における動物の救護」，「BSEに関するリスクコミュニケーション」，「北海道の生物多様性保全と野生管理」，「エゾシカの個体群管理および食肉利用の現状と課題」，「食の安全を守る獣医師―管理獣医師を知っていますか？」では，地元市民を含む多数の参加者を得て大変好評であった．

また，本年次大会では昨年度に引き続き㈳日本獣医学会の企画協力をいただき，合同シンポジウム「胚の死滅による妊娠喪失」及び「動物たちの匂いの世界：その研究の最前線」を開催し，ともに聴講者が重要なテーマに真剣に耳を傾けた．

さらに，大会2日目には歓迎交流会が札幌パークホテルに場所を移して盛大に執り行われた．本交流会では，本年次大会の共催であり歓迎交流会主催の北海道獣医師会の波岸裕光会長から歓迎交流会主催者挨拶が行われ，続いて，山根義久日本獣医師会会長から学会年次大会主催者挨拶が行われた後，高橋はるみ北海道知事，渡部正行札幌市副市長，瀧澤義一ホクレン農業協同組合連合会副会長からそれぞれ祝辞をいただいた．

この他，会期中には学会幹事会議，各学会幹事懇談会等も開催された他，平成23年度獣医学術賞の発表と授与が行われ，日本獣医師会会長並びに本賞の協賛会社から受賞者の代表者に賞の授与が行われた（受賞者等については本号161～162頁に掲載）．

なお，平成24年度の獣医学術学会年次大会は，大阪市獣医師会の共催により，平成25年2月9日(土)～11日（月・祝）の3日間，大阪市の大阪国際交流センター及びシェラトン都ホテル大阪において開催予定である．

日本獣医師会学会学術誌投稿の手引き

（平成23年4月1日　日本獣医師会）

1　目　的

本手引きは，日本獣医師会学会学術誌投稿規程（以下「投稿規程」）に則り投稿原稿の審査や編集が円滑に行われることを目的に，投稿規程に記載のない，一般的な事項，編集において必要な事項，著者が見落としやすい事項等を示したものである．

2　投稿資格及び条件関連

(1) 筆頭著者は，日本獣医師会構成獣医師もしくは賛助会員（個人に限る）でなければならない．それ以外の者が筆頭著者の場合は，投稿料を徴収する（投稿時審査料10,000円，採用時掲載料50,000円を納入する）．ただし，編集委員会が認めた者については，この限りでない．

(2) 発表者は，原則として8名以内とし，研究材料提供等については，謝辞で記載する．

(3) 投稿原稿は，獣医学が扱う臨床，動物衛生，食品衛生，環境衛生，人と動物の関係，獣医学教育，動物用医薬品・機器等を内容とする，獣医学術の振興・普及及び調査研究の推進に関する学術論文等を範囲とし，委員会において，掲載に相応しい学術分野を指定する．

(4) 他の学会誌等に投稿中，もしくは発表した論文等は受け付けない．なお，口頭による発表はこの限りでない．

3　投稿要領関連

(1) 投稿（初回）の際は，所要事項を記載し，著者全員の署名した投稿票を必ず添付する．

(2) 投稿原稿は，4部を提出する．

(3) 原稿は，A4判用紙を使用し，1頁（片面）を25字×24行の横書きで，明朝体を用いページを付す．

(4) 原稿の枚数は，表題，和文要約，英文要約（SUMMARY），本文，図（写真を含む）・表等すべてを含めた枚数で，投稿区分の規定枚数は，別表のとおりとする．

(5) 特に図，表は，本文との兼合い（枚数，印刷時の大きさ）を十分考慮し，規定枚数内に納める．

(6) 以上の事項を逸脱した原稿については，審査以前に再提出を依頼する．

【別表】掲載区分と投稿原稿の制限枚数及び刷り上り頁枚数

掲載区分	投稿原稿制限枚数 A4判ワープロ等 （25字×24行）	刷り上り頁数
総　　説	24枚	6頁以内
原　　著	20枚	5頁以内
短　　報	16枚	4頁以内
技術講座	16枚	4頁以内
資　　料	8枚	2頁以内

4　執筆要領関連（原著及び短報）

(1) 用　　語：

ア　動植物名は，原則として漢字を使用する．ただし，一般的に使用されているものに限り（例：人，犬，猫，牛，豚，鶏，馬，羊等），それ以外のものはカタカナで表示する．

イ　薬品名は，原則として一般名もしくは局方名を使用し，カタカナで記載する．また，機器名は原則として一般に使用される名称を和文で表示する．

ウ　本文中に一般名等で記載した薬品，機器等の商品（製品）名及び社名等は，一般名称の直後に括弧内で記載することができる（商品（製品）名，社名，都道府県名の順／例：ニチジュウワクチン，日獣製薬㈱，東京）．

(2) 表紙（第1頁）：

ア　最上段左側に部門名，希望投稿区分及び「新規」（新規投稿原稿の場合）あるいは「継続」（継続審査原稿の場合）の表示を赤字で明記する．

イ　次いで，表題，著者名，所属機関名（大学は学部名，都道府県勤務は支所名（本所は部名），までとし，「○○動物病院」⇒「○○県　開業」（県名は所属獣医師会または所在地名），「株式会社」⇒「㈱」，「社団法人」⇒「㈳」，「財団法人」⇒「㈶」，「独立行政法人」⇒「㈱」とする．）及び所在地住所（郵便番号を含む．併せて，実際の動物病院名も記す．）を和文で記載する．

ウ　表題は原則として副題，括弧，略号，「～について」，「～に関して」等は付けない．

エ　最下段には連絡責任者の所属（大学は教室名，都道府県勤務は係名まで，動物病院等は，実際の名称

を記載），住所，電話番号（ファックス番号），メールアドレスを記入し，別刷を希望する場合には必要部数を赤字で明記する．

オ　表題が28字を超える場合には，28字以内の柱（ランニングヘッド）を記入する．

(3) 和文要約（第2頁）：

字数は360字以内とし，要約の最下段には，原著では5語以内，短報では3語以内の日本語のキーワードを英文のKey wordsに対応する順で記載する．

(4) 英文SUMMARY（第3頁）：

ア　英文の表題，著者名，第1著者の所属機関名，所在地住所（郵便番号を含む），SUMMARY及びKey wordsを記載する．

イ　SUMMARYは，250ワード以内とし，行間を広く空けてタイプする．

ウ　SUMMARYはなるべく和文要約に対応した記載にする．

エ　Key wordsは，SUMMARYの最下段にABC順で記載する．

(5) 本文（第4頁以降）：

ア　原則として，①緒言（見出しは付けない），②材料及び方法，③成績，④考察，⑤引用文献の項目に区分して記述し，数字を用いて項目分けしない．（ただし，短報では必ずしも，この区分で記述する必要はない）．

イ　実験動物等の取り扱いについては，所属研究機関の動物実験ガイドライン（指針）に沿って動物に苦痛を与えないように実験を行った（または動物実験委員会の許可を得て実験を行った）旨を明記した上で，動物の苦痛を和らげる方法について具体的に記述し，当該動物を使用して実験を行う必要性と意義を説明し，併せて動物の入手方法と飼育状況を具体的に記載する．

ウ　図（写真）・表

（ア）図（イラストレーションを含む）は，黒インクでA4版の白紙または青色方眼紙を用いて，表題を付け，原図から直接製版できるものとする．

（イ）表は，縦罫線を入れない．

（ウ）写真は，白黒でコントラストの明瞭なもの（カラーの際はモノクロ印刷でも明瞭なもの）とし，表題と簡単な説明を付け，原寸印刷が可能なように必要部分を横7.8cm，縦6.0cmまたは横15.5cm，縦10.0cmに整形して台紙に貼付する（全体を糊付けするのではなく，コーナーのみを糊付けする）．なお，デジタル画像を用いる際は，明瞭な印刷ができるように光沢紙等の専用紙を用いる．

（エ）写真には図と同様に一連の番号を付け，初回投稿時には4部すべての原稿にオリジナルを添付する．

（オ）図及び表は，1点を1枚の台紙に貼付し（デジタル画像で光沢紙等を用いる際も同様），写真とともに原稿の最後にまとめて添付する．さらに，それらの挿入位置を本文の右欄外に赤字で明記する．

エ　引 用 文 献

（ア）引用できる文献は，学会誌，専門的学術誌あるいは専門書とし，学会抄録，講演会テキスト，レフリー制度のない商業雑誌の他，大学，研究機関，団体の年報・報告書・会報，関係省庁の法令・事業報告，辞書・辞典等，また，ホームページは原則として引用できない．

（イ）本文中では，著者名の直後等，引用箇所に［1, 2–5］のように記載する．

（ウ）文末に，本文中最初に引用された順に配列した引用文献リストをおく．①雑誌の場合は，著者名（全員列記），論文のタイトル名，誌名，巻，頁（1箇所のみ），年次（カッコ書き）とする．②単行本の場合は，著者（著者が複数の場合は，引用した著者のみ），記事のタイトル名，書籍名，訳者名（1名のみ記載し，その他は和文では「他」，英文では「et al」とする），編者名，版，頁，発行者，発行地，年次（カッコ書き）とする．ただし，著者名がない際は，編者がいる際は編者名を，その他は，学会，研究会等の名称を記載する．

（エ）和文誌名は原則として省略しない．ただし，慣例的に使用されているものはこの限りではない（例：日獣会誌，日獣誌など）．

（オ）欧文誌名の省略は，Journal Title Abbreviationsによる．指定のないものは省略しない．

【雑誌の場合】

［1］ 青山太郎，青山花子，赤坂次郎：子牛の開放性骨折の1例，日獣会誌，45，115–120（1992）

［2］ 青山太郎，青山花子，江戸三郎，東京　愛：犬のレプトスピラ症の抗原検出法，日獣誌，30，135–138（1992）

［3］ Aoyama T, Aoyama H : The welfare of animals, Jpn J Vet Sci,54, 120-124 (1989)
［4］ Aoyama T, Aoyama H, Kanda J : A survey of heavy-metal contamination in imported seafood, J Vet Med Sci, 54, 126-130 (1992)
［5］ Aoyama T, Aoyama H, Suzuki K, Tanaka S, Takahashi Y : Pathogenicity of the aino virus in japan, Am J Vet Res,53, 155-160 (1992)

【単行本の場合】
［1］ 神田一郎：マイコプラズマ，獣医微生物学，江戸三郎編，第1版，100-103，青山堂出版，東京（1992）
［2］ Smith J：マイコトキシン中毒，選択毒性，赤坂次郎訳，250，学会出版センター，東京（1989）
［3］ Roitt IM : Immunophoresis, Immunology, Fred OG, et al eds,2nd ed,150-160, Grower Med Publ, London (1989)

関連集会などのご案内

☆日本臨床獣医学フォーラム
「小動物臨床レクチャーシリーズ in 四国」

主　催：日本臨床獣医学フォーラム
日　時：①平成24年3月21日(水)　21：00～23：00
②平成24年4月16日(月)　21：00～23：00
③平成24年5月16日(水)　21：00～23：00
場　所：香川県獣医畜産会館　2F会議室
内　容：①消化器疾患の診断と治療　講師：中島　亘
②動画で見る神経疾患　講師：宇根　智
③副腎の疾患　講師：竹内和義
参加費：3,500円（ハンドアウト代含む）
問合せ：やすだ動物病院　保田英彰
FAX087-863-0024
E-mail：yasudadvm@gmail.com
入江動物病院　三好拓馬
FAX087-864-4070
E-mail：mac@vet.ne.jp